

# 書 評

三木 啓子 著  
**考えよう！ハラスメント（I・II巻）**

アトリエエム  
 定価 10000円＋税（I・II巻あわせて）

昨年5月に「女性活躍・ハラスメント規制法」が公布され、今年6月から施行されました。また昨年ILO（国際労働機関）総会で「仕事の世界における暴力とハラスメント」が採択されました（日本は未批准）。

私もあらためてハラスメントについて学ぶ必要があると思ったのですが、意外とテキストとなるものを見つけられず、基本的なことが書かれているものがないだろうかと探しているときに出会ったのがこの2冊でした。

中央労働災害防止協会やJ-P労組の冊子に連載されたコラムを編集したもので、ひとつの事例について2ページずつの記述となつていきます。このひとつひとつの事例をつなげていくと、ハラスメントがおこる社会の背景が見えてきます。

たとえば、パワハラのおこりやすい職場の特徴として、「上司と部下のコミュニケーションが少ない職場」「正社員・非正規社員など様々な雇用形態の従業員がいる職場」とあげられています。これらは長時間労働や加重労働により仕事中にコミュニケーションがとれない現状や、仕事ができないのは「自己責任」

考えよう！  
 ハラスメントI

三木 啓子



といった社会的な流れがあると考えられます。また、非正規で働く労働者の7割

は女性ですが、セクハラやマタハラは女性に対する差別やジェンダーによる「無意識の偏見」からおこっています。ハラスメントは個々の問題ととらえられがちですが、私たちの社会や組織にある「差別と分断」によるもの、そして「働かせられ方」が大きな課題であることを読み取ることができます。

また、本書は「受けた」場合の対処法だけではなく、「する側」にならないためにどうするべきか、も書かれています。

ILOのハラスメント条約には、「仕事の世界における暴力とハラスメントは人権侵害のひとつであり、均等な機会への脅威であり、受け入れ難く、かつディーセント・ワークと相容れない」と定義されています。

私たちが個々を尊重し、人間らしい生活ができる社会を作るために、小さな社会である職場や労働組合にいる1人1人がハラスメントについて考える必要があるでしょう。

1巻目の「あるある職場のハラスメント」は基本編。2巻目の「ストレスと心の健康診断」は応用編です。ぜひ多くの方に手にとっていただきたいと思います。

（評Ⅱ大浦）